

排水対策を事前に行い、適期播種に努めましょう！

1. 排水対策

そばは湿害に弱い作物です。特に生育初期の停滞水は出芽・生育を阻害し、収量にも大きく影響します。出芽・生育確保のためのポイントは、ほ場表面に水を停滞させないことです。

①ほ場周辺の明渠設置 ②ほ場内の排水溝設置（約5m間隔） ③サブソイラ等による心土破砕により播種前に排水対策を徹底し、出芽率の低下を防ぎ、初期生育の確保を図りましょう。

2. 耕起作業 <碎土率：1cm以下の土塊率60%以上>

大きな土塊は、そばの出芽率低下や雑草増加の原因となります。

現在、雑草の発生がみられるほ場では、ほ場の乾き具合をみながら、事前耕起ですき込みましょう。

また、丁寧な耕起作業で碎土率を高めましょう（1cm以下の土塊率60%以上）。

なお、ほ場が乾燥している時に耕起作業を行うとより効果的に碎土率が高まります。

3. 施肥管理 <基準施肥量：窒素2~4kg・リン酸6~9kg・カリ6~9kg（成分10aあたり）>

そばは吸肥力が高く、過度の窒素施用は徒長・倒伏の原因になります。そのため、ほ場の肥沃度に応じた窒素施用量の調整が必要です。特に、野菜の後作の場合は窒素施肥せず、リン酸・カリのみを施用します。また、そばは酸性土壌（pH4.5以下）で生育が阻害されます。土壌分析の結果、pH4.5以下の圃場も確認されております。そのような圃場では石灰資材で酸性度を調整しましょう。

4. 播種作業 <播種適期：平坦部 8月1日~10日頃、中山間・山間部 7月25日~8月5日> <基準播種量：散播 7~8kg、ドリル播き 5~6kg(/10a)>

そばの早播きは徒長・倒伏をまねき、一方遅播きは生育量が減少し減収につながります。

また、開花期の最低気温が17℃未満になると結実不良を生じる可能性が高まります。㎡当たり苗立数150本程度の確保を目標に、適期・適量播種につとめましょう。また散播の場合、播種後にロータリーやハローで軽く混和・覆土を行います。

播種直後の降雨は、出芽を極端に阻害します。天気予報等を確認し、播種作業を行いましょう。

表 播種直後の湛水処理とそばの出芽率（長野県中信農試）

湛水条件	出芽率 (%)
湛水なし	87
1日湛水	26
3日湛水	3

※播種直後湛水処理

※ 畑作物直接支払交付金のそばの数量払いの交付単価

1俵当たりの数量払は【1等;17,470円、2等;15,360円】。収量・品質の確保で経営の安定につとめましょう。

農作業は、心と身体にゆとりを持って行いましょう！！